

すいた環境サポーター養成講座 第 9 回目

日時：12/19(木)18：30～20：30

場所：千里市民センター8階 多目的ルーム(1)(2)

◆地球温暖化 最新緩和策研究

講師：大阪大学太陽エネルギー化学研究センター教授 中西 周次 氏

地球温暖化の緩和策として、珊瑚礁、排水処理、医療の側面から紹介されました。

サンゴは光合成をおこなう微生物と共生をしています。この有機物と云われる微生物は光合成にて、二酸化炭素と太陽光エネルギーから、水と酸素を作っています。一方で人間は有機物である化石燃料を燃やすことによりエネルギー(電気など)を作り出していますが、温室効果ガスである二酸化炭素も排出するので、環境に悪影響を与えています。

産業革命以前は二酸化炭素と酸素の排出・生成サイクルが調和していましたが、現在はその均衡が崩れています。

これについて、環境負荷が少ない技術として、人工光合成があげられました。

排水処理については、汚れ、つまり有機物を川や海に流さず処理する方法として、微生物を活用した方法が紹介されました。医療については、血中にどれくらい有機物であるグルコースが入っているかを調べる、血糖値の測定について紹介されました。これらは一見、まったく別々の内容に見えますが、“有機物と酸素”に関係性があるという点では同じ原理を有しており、それに基づけばすべて同じ化学式で説明できます。そして排水処理技術等には人工光合成を応用することにより、温室効果ガスの発生を抑えた技術にかわる可能性があります。

地球温暖化を緩和するための様々な技術革新の実現には自然と社会の双方を研究する必要があることを学びました。



◆学習発表会オリエンテーション

およそ 2 か月後の学習発表会にむけて、そのテーマや発表のやり方について事務局よりオリエンテーションがありました。受講者の方々はオリエンテーション後にミーティングを行い、発表する課題について議論を交わしました。

◆ふりかえり

第 9 回目も、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして、終了しました。

